

平成28年度 第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成28年9月2日（金）13時00分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：19名 オブザーバー：19名 計38名

○議事次第

説 明 (1) 「第2期秋田市中心市街地活性化基本計画」原案について
(2) 「県市連携文化施設に関する整備計画」原案について

報 告 (1) 長野市先進事例視察実施報告
(2) 中心市街地商店街環境整備支援事業の採択結果
(3) まちなかプロジェクトチームトライアル事業の進捗について

○結果報告

【三浦会長の開会挨拶】

本日はお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。

さて、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の策定に向け、作業は終盤に差し掛かっております。前回、秋田市より基本計画の草案が提示されましたが、本日はその後の検討を踏まえた原案についてご説明いただくこととなっております。

併せまして、本計画の中核事業である「県市連携文化施設に関する整備計画」についても、原案をご説明いただきます。

さらに、前回の協議会でご承認いただいた「中心市街地商店街環境整備支援事業」と、「まちなかプロジェクトチームトライアル事業」においても進捗がありますのでご報告をさせていただきます。

第2期中活計画については年度内の内閣府認定に向けて、この後、パブリックコメントによる意見集約、市議会での説明等を経て、12月に開催予定の第3回中活協にて最終案へのご意見をいただく予定となっております。ご臨席の皆様からは、本計画をより良いものにすべく、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

【内 容】

説 明

「第2期秋田市中心市街地活性化基本計画」原案について、秋田市都市整備部都市総務課の根田課長より説明があった。

前回草案をお示しした際にも説明したが、まずは変更がない部分から再確認したい。

基本コンセプトについては「千秋公園（久保田城跡）と連携した城下町ルネッサンス（中心市街地再生）～新たな市民文化をはぐくむ多世代が交流する賑わい拠点の形成～」として設定する。

これを実現していくためには上位関連計画である「第13次秋田市総合計画 新・県都あきた成長プラン」等との整合性を図りながら「中心市街地への来街者・交流人口の誘引」、「持続的まちなか居住、定住化の促進」、「恒常的な賑わいの確保とまちの活力の向上」といった3つの課題を解消していく必要がある。

そのため、「多様な人々が行き交い、新しい文化を育む舞台の形成」、「快適な居住環境の形成と既存ストックの有効活用」、「店舗を主とした事業所の立地促進と市民活動の推進」といった3つの基本方針を設定する。

目標を「行きたい街、住みたい街、活力ある街」の実現とし、達成度については「歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)、芸術文化施設利用者数、居住人口、商業集積促進関連制度利用件数、公共施設利用件数」を基に判断していく方向性である。以上が前回草案時にお示しした部分の確認である。

次に、修正や追加部分について説明する。各指標のうち次の目標値について修正した。

1点目は「歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)」についてであるが、草案時にお示していた通行量算出基準値が平成27年のデータであったため、平成28年の最新データに置き換えて再算出し、更に県・市連携文化施設整備事業、(仮称)芸術文化交流施設整備事業、街なか居住人口、旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備等の影響を再度試算し、36,000人から35,000人に修正した。なお、この目標値は平日33,400人、休日39,000人を想定している。

2点目、「芸術文化施設利用者数」については前回草案時の算出根拠に加え、新たに(仮称)芸術文化交流施設整備事業による増加を勘案。718,000人から730,000人に修正した。

3点目、「公共施設利用件数」については公共施設貸し会議室等利用実績を精査した結果、算出基準値が変更となり、目標値についても22,000人から21,300人に修正した。

その他、掲載事業について追加し、位置付け及び必要性についても内容を記載した。結果として本件原案では区画整備等の基盤整備事業として6事業、都市福利施設整備事業として3事業、街なか居住推進事業として3事業、経済活力向上のための事業として41事業、公共交通機関利便性増進事業として2事業を掲載している。

原案の説明は以上であるが、本日は皆様のご意見を参考にさせていただき、12月には最終案を提示させていただく予定である。

引き続き、「縣市連携文化施設に関する整備計画」原案について、秋田市企画財政部企画調整課の齋藤課長より説明があった。

説明の前に配布資料については、あくまで8月上旬に開催した県民との意見交換会で使用したものであることをご了承いただきたい。

県・市連携文化施設については従前から説明してきた基本目標、3つの役割、5つの機能に加え、本日は施設の構成について詳細をご説明させていただく。

まず1点目は「エントランスロビー」である。公演の会場までの時間を過ごすことができるスペースとし、大型モニターや音響設備を設け、映像や音楽を流すことで、開場待ちの時間帯も楽しめる空間とする。また、小規模のイベントや展示発表が可能な空間としても活用できるようにするほか、県民・市民が日常的に訪れることができるラウンジとしても機能させる方向である。

2点目は「文化創造部門」である。公演のリハーサルや、サークル・劇団等の日常的な練習の場となるとともに、舞台美術、大道具の制作、サークルや文化団体が気軽に集まりミーティングや発表会の打合せを行えるなど県民・市民の文化創造の場とする。

3点目は「情報発信・にぎわい創出部門」である。県内のほかの文化施設の催事情報や、民謡や無形民俗文化財の紹介コーナーなど本県の文化を発信する情報センター機能を設けるほか、公演のない日でも利用できるカフェ・レストラン用のスペース確保など県民・市民が日常的に集える場所にする。

4点目は「管理・共用部門」である。運営管理や県民・市民の活動を支えるスタッフ等が常駐できる執務スペースを確保する。

なお、施設構成のうち2,000名収容可能な「高機能型ホール」、800名収容可能な「舞台芸術型ホール」については以前から構想をお示ししていたため、説明は割愛する。

続いて、施設配置について説明する。建設候補地である現県民会館所在地にどのように新たな施設を配置できるのかをお示しするために作成した資料を添付した。設計は今後であり、本資料はあくまで検証資料であることをご承知いただきたい。

敷地面積は13,225㎡、建築面積6,700㎡、延床面積21,500㎡、建物最後部分が25m。限られた敷地の中によりコンパクトに配置するとどのようになるかを県と市で検討した。また、もう一つ選択肢として図面を添付しているが、こちらは敷地内スペースを最大限利用した場合の施設配置例である。選択肢の一つとして参考になればと思い添付させていただいた。

最後にその他の部分について一括して説明する。

まずは、施設構成と概算面積である。客席、舞台関係、楽屋関係等で構成される高機能型ホールは6,400㎡、同じく舞台芸術型ホールは3,400㎡、エントランスロビーは700㎡、創作室や練習室、ラウンジ等で構成される文化創造部門は1,700㎡、情報センター、カフェ・レストラン等で構成される情報発信・にぎわい創出部門は500㎡、事務室や会議室等で構成される管理共用部門は8,800㎡で検討中である。

駐車場の確保については、敷地内に出演者および障害者用の駐車スペースを可能な限り設けるとともに、来場者が専用的に利用できるスペースを整備できるよう調整するほか、既存の周辺民間駐車場等との連携を進める。候補地としては現在敷地に隣接する学校法人とも交渉をはじめているが詳細については未決定であるため、決定次第お示ししたいと考えている。

概算整備費については200億円ということで説明していたが、今回は内訳についてお示しする。調査費150百万円、現県民会館450百万円、造成費264百万円、設計・管理費378百万円、本体工事費18,123百万円、外構工事・備品費635百万円である。

次に、整備スケジュールについてであるが、本整備計画は現段階では原案となっているが、今後の市議会・県議会を経て、平成28年12月には正案としたい考えである。その後平成29年度からは基本設計・実施設計に着手し、平成30年度には現県民会館を解体。翌平成31年度から新施設の建設に取り掛かる予定で検討を進めている。なお、県民会館大ホールが工事のため存在しない4年間については、代替施設の利用手続き情報や利用料金等の周知に努め対応していきたいと考えている。

県・市連携文化施設についての説明は以上であるが、補足として2点ほど説明させていただく。

まずは、「芸術文化ゾーン」についてである。この件については6月30日に開催された第1回秋田市中心市街地活性化協議会で説明を行い様々なご意見をいただいたが、その後、関係団体等との意見交換を実施した。その中では、民間と行政が「本気」になって取り組むべきだ、旧県立美術館を活かして欲しい等のご意見をいただいているので、ご報告する。

2点目は、旧県立美術館の利活用についてである。千秋公園一帯を「芸術文化ゾーン」として面的に充実させることを視野に、「活動」、「ポジティブ」、「創造」をキーワードにした発信型の施設とすることをコンセプトとしている。こちらも関係団体との意見交換を実施し、検討を重ねている。

以上の2点についてはいずれも9月の市議会で説明を行い、10月中旬からはパブリックコメントを実施し、11月には県・市連携文化施設と同時期に最終案を提示する予定である。

【出された意見】

木内委員（秋田まちづくり㈱）

中心市街地への来街者を増加させることは良いことだと思うが、具体的な手段はあるか。

根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）

原案にもあるとおり、県・市連携文化施設整備事業、（仮称）芸術交流施設整備事業等の実施により増加するとの見通しである。

木内委員（秋田まちづくり㈱）

予定通り交流人口が増加した場合、特に中土橋あたりは歩行者や車輛に対してその交通量に耐えうる整備体系になっているとは思えないがどうお考えか。

根田課長（秋田市都市整備部都市総務課）

中心市街地内11カ所で通行量調査を実施し検討したが、現段階では歩道の消融雪、周辺道路の整備等により対応していきたいとの考え方である。

木内委員（秋田まちづくり株）

了解した。県・市連携文化施設付近のみならず、交通整備は施設整備と並行して引き続き検討していただきたい。

報 告

（１）長野市先進事例視察実施について事務局より報告。第２期秋田市中心市街地活性化基本計画策定に向けての参考とするため、委員を中心に１０名が参加。第２期長野市中心市街地活性化基本計画の核となる事業である「長野駅善光寺口顔づくり事業」のほか、株まちづくり長野で運営するリノベーション商業施設「ばていお大門」等の視察と、長野市側との意見交換を実施した。

次に、（２）中心市街地商店街環境整備支援事業の採択結果について事務局より報告。秋田市広小路商店街振興組合からはハンギングフラワー設置事業、秋田市通町商店街振興組合からはイベント販促用機材整備事業、川反外町振興会からは川反外町 Wi-fi 設置事業の合計３件の申込に対し、いずれも採択された。

最後に、（３）まちなかプロジェクトチームトライアル事業の進捗について事務局より報告。「川反外町案内サイン設置事業」については８月３１日に設置が完了したこと、「中心市街地県市観光文化施設パンフレット作成事業」については９月上旬にて校了し、順次設置していく方向性であること、協秋田市民市場活性化事業については今年度予算について承認され、今後市場内回遊に向けた環境整備に取り組んで行く方針であることがそれぞれ報告された。

閉 会